

施設内で見られる 樹木



オンコ (イチイ)
 イチイ科 *Taxus cuspidata*
 雌雄異株の常緑高木。赤く多肉状に熟す仮種皮は甘く食べられるが、中の種子は有毒。材は緻密で狂いがなく、用材として最高級。



キャラボク
 イチイ科 *Taxus cuspidata* var. *nana*
 雌雄異株で低木状の常緑樹。枝は横に広がり立ち上がらない。庭木として賞用される。赤く多肉状に熟す仮種皮は甘く食べられるが、中の種子は有毒。



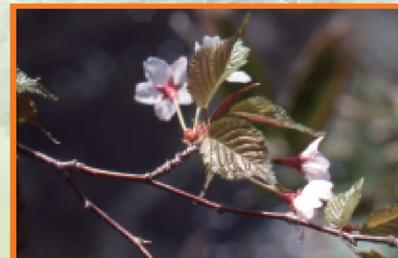
プンゲンストウヒ
 マツ科 *Picea pungens*
 北アメリカ原産の大木となり円錐形の整った樹形をなす針葉樹。葉は白色を帯びた灰緑 - 淡青色。まつぼっくり (球果) は下垂する。



メタセコイア
 スギ科 *Metasequoia glyptostroboides*
 円錐形の樹形をもつ落葉針葉樹。葉は羽状でやわらかい。化石のみ知られていたが、後に中国四川省の奥地で生きた木が発見された。



エゾヤマザクラ (オオヤマザクラ)
 バラ科 *Prunus sargentii*
 葉は若葉が赤褐色を帯びる。花は紅紫色で、葉の出る前か同時に咲く。果実は球形で、黒紫色に熟す。ヤマザクラより高所にはえる。



チシマザクラ
 バラ科 *Prunus nipponica* var. *kurilensis*
 北海道や千島などの北国に自生。花は淡い紅色で葉が出るのと同時に咲く。タカネザクラとは葉や花に毛が多いことで区別される。



サンシュユ
 ミズキ科 *Cornus officinalis*
 江戸中期に薬用植物として渡来した。葉が出るより前に黄色く小さな花が小枝の先に 30~40 個密集して咲く。紅い実が鈴なりになる。



ナツツバキ
 ツバキ科 *Stewartia pseudocamellia*
 幹はサルスベリに似て、平滑で独特の模様がある落葉樹。花は白色の 5 弁花で、ツバキに似る。花は朝開いて、夕方には落ちる一日花。



ハクウンボク
 エゴノキ科 *Styrax obassia*
 葉は卵形で、裏面は灰白色。枝先に多数つく白い花が白雲を思わせることが名の由来となった。果実は熟すと割れ、褐色の種子が出る。



ヤマモミジ
 カエデ科 *Acer palmatum* var. *matsumurae*
 日本海側に分布する日本固有のモミジ。葉はふつう手のひら状に 7~9 裂する。果実にはプロペラ状の翼がある。



ライラック
 モクセイ科 *Syringa vulgaris*
 香りの強い花を枝先に多数円錐状につける。古くから栽培され、花色は白・桃・藤色などさまざまなものがある。札幌市の木。



ツリバナ
 ニシキギ科 *Euonymus oxyphyllus*
 花や果実が長い柄の先に吊り下がる。果実は球形で、赤褐色に熟すと裂開し朱色の仮種皮に包まれた種子を通常 5 個ぶら下げる。



クロフネツツジ
 ツツジ科 *Rhododendron schlippenbachii*
 中国~朝鮮半島原産で江戸時代に渡来したツツジ。花は淡い桃色または白色の漏斗形で枝先に咲き、葉も枝先に輪生状につく。



ドウダンツツジ
 ツツジ科 *Enkianthus perulatus*
 花は白く壺形で枝先に下向きに咲く。葉は枝先に集まってつく。樹形が整い、秋の紅葉も見事なため庭木などに多用される。

見頃 カレンダー

— 花
— 実
— 紅葉

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
エゾヤマザクラ					—							
チシマザクラ					—							
サンシュユ					—					—		
ナツツバキ								—				
ハクウンボク					—							
ライラック					—							
クロフネツツジ					—							
ドウダンツツジ					—					—		
リョウブ							—				—	
ムクゲ							—					
サツキ						—						
アセビ					—							
ヒベリカム カリシナム							—					
スイセン					—							
ムスカリ					—							

※植物の開花時期などはあくまでも目安で、年により多少の前後があります。

Aboc™